

令和3年度
推薦入学試験

【情報学群 知識情報・図書館学類】

区 分	出 題 意 図 ・ 正 解 例
小論文	<p>問題 1</p> <p>問 1</p> <p><出題意図> 読解力、発想力、思考力、表現力を見る。</p> <p><解答例> 体が覚えている無意識の生活習慣、すなわち言語化された意識を必要としない習慣のこと (40 字)</p> <p>問 2</p> <p><出題意図> 読解力、思考力、表現力を見る。</p> <p><解答例> 著者は、著作権は大事であるものの、一方で、書き手としてはより多くの読者に自分のメッセージを届けたいという思いがあると述べている。グーグル訴訟が和解となれば、グーグル社により許諾なく出版物を電子情報化され利用される可能性があったと考えると、ここにいう違和感とは、自己の出版物等がウェブ等において電子情報化されて流通することを懸念し、あくまで著作権を主張して利用を拒否するという姿勢に対し、自らの著作物が広く流通して多くの読者に読まれてほしいという希望と矛盾することから感じた疑問ではないかと考える。(248 字)</p> <p>問 3</p> <p><出題意図> 発想力、思考力、表現力を見る。</p> <p><解答例> われわれの社会生活の中で情報は重要な役割を果たしており、選挙の際にどの候補に投票するかといった判断から、日常的にスーパーマーケットで商品を選択する際であっても、正しい情報が提示されていることが適切な意思決定をするためには必要である。したがって、情報はできるだけ多くの人々に公開され、より簡単にアクセスできるようにすることが望ましく、かつまた、多くの人々が共有することによって情報の正確さや適切さを検証することができるようになると考えられるという意味で、情報には公共性があると言える。一方で、民間企業は営利を目的としていることから、情報の公共性と企業の利潤追求活動との間に齟齬が生じ、企業が利潤追求を重視する行動をとることによって、筆者のいうように、情報の公共性がゆがめられる可能性が存在する。具体的には、インターネット上の未知の情報に到達するためには検索エンジンを利用することが考えられるが、グーグル社に対して批判的な内容の書籍や記事の情報がインターネッ</p>

ト上に存在した際、それらの情報が検索結果の上位には表示されず、結果として多くの人々の目に触れないようにさせるといった事象の起こることが懸念される。(500字)

問題 2

問 1

<出題意図>
読解力、表現力を見る。

<解答例>
必要な情報が残らないで、残ってほしくない情報がいつまでも残ること
(32字)

問 2

<出題意図>
読解力を見る。

<解答例>

(1) [×] (2) [○] (3) [×] (4) [×]

問 3

<出題意図>
読解力、論旨把握力、表現力を見る。

<解答例>
筆者は **digital life** における二つの重要な逆説によって、人々に情報へのアクセスを提供し、情報を保存するという図書館の古典的機能が、その重要性をますます高めている一方で、そのための方法自体は変化していく必要があると述べている。(115字)

問 4

<出題意図>
読解力、思考力、表現力を見る。

<解答例>
情報へのアクセスが容易になった一方で、情報を保存することがより困難になるという問題が生じたり、情報はどこにでも存在するという一方で、情報が誰にとっても均等に分配されている訳ではなく、それを見つかったり、意味を理解したり、利用したりすることがより困難になるといった問題が生じるように、**digital life** において生じたメリットによって、結果的にデメリットがもたらされることがあるという逆説的な現象が生じているから。(197字)